

シバキープセイバー

農林水産省登録 第24243号

農薬の種類 イマゾスルフロン水和剤

容量 100mL 入

成分

イマゾスルフロン・・・・・・・・・・・・・・・・	40.0%
〔1-(2-クロロイミダゾ[1,2-a]ピリジン-3-イルスルホニル)-3-(4,6-ジメトキシピ リミジン-2-イル)尿素〕	
水、界面活性剤等・・・・・・・・	60.0%

性状 類白色水和性粘稠懸濁液体

ラベルをよく読む。記載以外には使用しない。小児の手の届く所には置かない。

【弱っている芝生に使用すると芝が茶色く変色することがありますので、ご注意ください。】

- 芝生が弱っている場合は使用しない。
- 日本芝植え付け後1年以内や、根切り作業後3か月以内には使用しない。
- 西洋芝は、発芽直後やターフ形成の不十分な状態では使用しない。
- 雑草の生え始めに、雑草めがけて散布してください。持続効果もあるので、芝生全面に散布することで、雑草の発生を予防します。
- 日本芝の中に発生した広葉雑草、ヒメクグに効果があります。西洋芝（ブルーグラス、ベントグラス）にも使用できます。
※天候、土壌条件、散布量等により効果に差が生じることがあります。
※イネ科雑草には効果がありません。
- 芝生以外の枯らしたくない植物に薬液がかかると枯れるおそれがあるので、かからないように注意してください。
- 雑草が大きくなりすぎると効果が出にくくなります。雑草の発生前から発生初期に散布してください。
- いったん水で薄めた薬剤は使いきってください。
- 夏場の西洋芝には使用しないでください。

適用雑草と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		使用 方法	総使用 回数＊
			薬量	希釈 水量		
日本芝	一年生及び 多年生広葉雑草	芝生育期 (雑草発生前)	200～ 400 mL/10a	200～300 L/10a	全面土壌 散布	3 回 以内
	一年生広葉雑草 ヒメクグ	芝生育期 (雑草発生初期)			雑草茎葉 散布又は 全面散布	
日本芝 (こうらいしば)	多年生広葉雑草					
西洋芝 (ブルーグラス)	一年生広葉雑草 ヒメクグ					
西洋芝 (ベントグラス)	コケ類	春夏期芝生育期 (コケ類発生初期)	200mL/ 10a		雑草茎葉 散布 又は 全面土壌 散布	

*は本剤及び本有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

1000 倍の希釈液の作り方 → 本剤キャップ 1 杯分（約 8mL）を 8L の水で希釈する。

使用量

日本芝に使う場合：

本剤を 500～1500 倍に希釈した薬液を 1㎡あたり 200～300mL 散布する。
(薬量 0.2～0.4mL/㎡、希釈水量 200～300mL/㎡)

西洋芝（ブルーグラス・ベントグラス）に使う場合：

本剤を 1000～1500 倍に希釈した薬液を 1㎡あたり 200～300mL 散布する。
(薬量 0.2mL/㎡、希釈水量 200～300mL/㎡)

効果・薬害等の注意

- ・ **使用前に容器をよく振る**（分離）
均一な状態にもどしてから所定量をとり出す。希釈する場合は所定量の水に加えて十分にかくはんする。
- ・ 雑草発生前及び雑草発生初期及びコケ類発生初期に有効なので時期を失しないように散布する。
- ・ イネ科雑草に効果が劣るので、イネ科雑草の多い場合はこれに有効な土壌処理剤との混用または体系で使用する（効果）
- ・ 散布時は芝生の付近にある草花や花木、畑作物などに薬液がかからないようにする（薬害）
- ・ 張り芝直後の芝には使用しない（薬害）
- ・ 散布に用いた器具類は、使用後直ちに洗浄し、他の用途に使用する場合は薬害の原因にならないように注意する。
- ・ 使用量、使用時期、使用方法を守る。特に初めて使用する場合は異常気象時は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意

- ・ 公園などで使用する場合は、散布区域に縄囲いや立て札をたて、散布中及び散布後（最小限その当日）に関係者以外は立ち入らせない。小児、人畜等に留意する。

魚毒性等・・・使用残りの薬液が生じないように調製し、使いきる。散布器具・容器の洗浄水は、河川等に流さない。空容器は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

保管・・・密栓し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼な所。